

# 減少つづく 耕地面積 .....

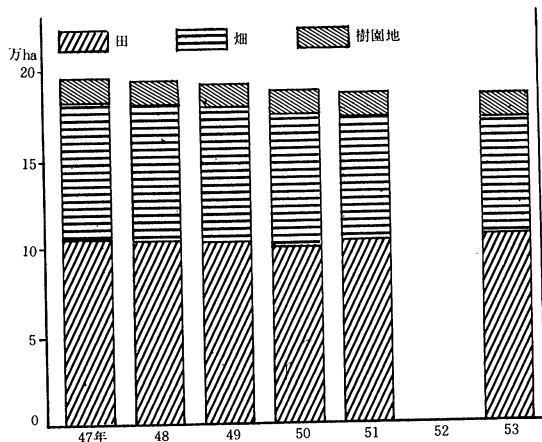
— しいたけ栽培も調査項目に —

## 5 経営耕地面積

総経営耕地面積は184,310ヘクタールで、前回(51年)に比べて1,767ヘクタール(0.9%)の減となり、これは年々減少している。この内訳をみると、田が105,281ヘクタール(2.3%増)、畑が65,306ヘクタール(5.2%減)、樹園地が13,723ヘクタール(3.7%減)となった。

総経営耕地面積のうち田は57.2%を占めており、前回調査時より2,338ヘクタール増となっている。田の内訳を前回と比べてみると、「普通田」88,175ヘクタール(0.2%増)、「陸田」の14,105ヘクタール(20.6%増)、「その他の田」

図-10 経営耕地面積の推移



が1,352ヘクタール(23.4%増)、「作付けしなかった田」が1,649ヘクタール(23.8%減)となり、「陸田」及び「その他の田」が増加している。

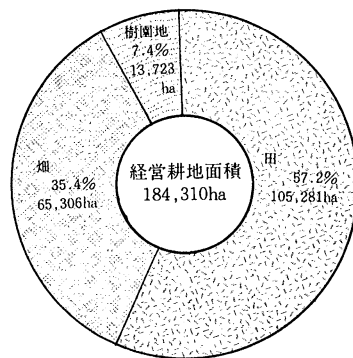
表-7 地域別経営耕地面積

区分	農家数	経営耕地面積		農家1戸当たりの経営面積									
				田	畑	樹園地	合計	田	畑	樹園地			
全 県	175,300	184,310	100.0	105,281	57.2	65,306	35.4	13,723	7.4	1.05	0.60	0.37	0.08
県北地域	64,750	56,926	100.0	29,372	51.6	22,299	39.2	5,255	9.2	0.88	0.46	0.34	0.08
鹿行 "	19,892	22,566	100.0	10,377	46.0	11,356	50.3	833	3.7	1.13	0.52	0.57	0.04
県南 "	48,248	57,814	100.0	35,830	62.0	16,643	28.8	5,341	9.2	1.20	0.75	0.34	0.11
県西 "	42,410	47,004	100.0	25,702	63.2	15,008	31.9	2,294	4.9	1.11	0.71	0.35	0.05

畑の耕地面積を内訳ごとに前回と比べてみると、「普通畑」59,659ヘクタール(5.4%減)、「牧草専用地」が1,694ヘクタール(23.2%増)、「作付けしなかった畑」が3,953ヘクタール(11.4%減)となった。

樹園地の耕地面積を前回と比べると、「果樹園」が7,940ヘクタール(1.5%減)、「茶園」が757ヘクタール(2.4%増)、「桑園」が4,551ヘクタール(7.0%減)、「その他の樹園地」が475ヘクタール(13.9%減)となった。

図-11 経営耕地の構成



次に経営耕地面積を地域別にみると、田の割合が一番高いのは県西地域の63.2%で、次いで県南地域の62.0%となっている。畑では鹿行地域の50.3%が最も高く、次いで県北地域の39.2%となっている。

また1戸当たりの経営耕地面積は農家数の減少により前回より0.01ヘクタール増の1.05ヘクタールとなった。

(単位: 戸, ha, %)

昭和三十九年農業基本調査結果(続)

6 施設園芸

施設農家数は6,671戸となり、前回(51年)に比べて3.8%減少した。

地域別にみても鹿行地域が前回より4.8%増加したほか、他の地域は2.6%~15.1%の減少となった。

次に施設面積は2,537,515坪となり、前回に比べて146,797坪(6.1%)の増となった。これを地域別に前回と比較してみると、県北地域が22.6%と最も多く増加し、次いで県西地域の5.6%、鹿行地域の3.5%とそれぞれ増加した。また、県南地域については0.2%とわずかながら減少した。

施設農家1戸当たりの施設面積は380.4坪となり、前回に比べて35.6坪(10.3%)の増加となった。これを地域別にみても

図-12 地域別施設農家数

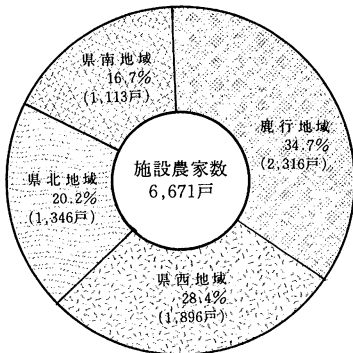
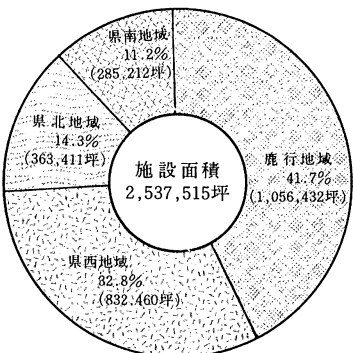


図-13 地域別施設面積



ると鹿行地域が456.1坪と最も多く、次いで県西地域の439.1坪、県北地域の270.0坪、県南地域の256.3坪の順になっている。

7 しいたけ栽培

今回より新たに調査した「しいたけ栽培」については、しいたけ栽培農家数3,272戸、そのほだ木本数が9,623,521本となった。

地域別にみると、県北地域の割合が高く農家数で48.2%、

図-14 地域別しいたけ栽培農家の割合

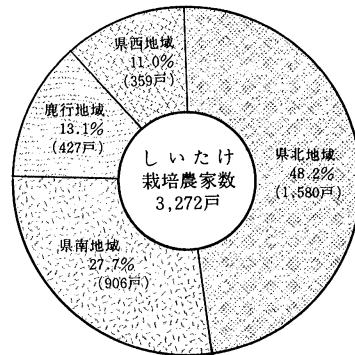
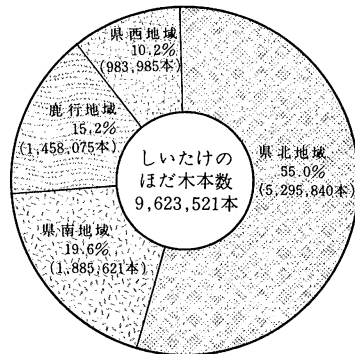


図-15 地域別しいたけほだ木本数の割合



ほだ木本数で55.0%を占めている。

また、しいたけ栽培施設農家は1,709戸、その施設面積は61,302坪となった。地域的にみると、これも県北地域が施設農家については45.3%、施設面積についても47.3%と高率を示している。

# 調査から

なお、1戸当たりのほだ木本数は2,941本、1戸当たりの施設面積は35.9坪となっている。

～38.0%とそれぞれ減少したが、飼育頭羽数については、豚の「売る予定の子豚・その他の豚」が2.1%減少したほかは6.4%～47.1%とそれぞれ増加したため、飼育農家1戸当たりの頭羽数が17.3%～92.0%とそれぞれ増加した。

## 8 家畜・家きん

前回（51年）に比べ、家畜・家きんの飼育戸数が8.4%

表-8 家畜・家きんの飼育戸数と頭羽数

(単位：戸，頭，羽，%)

区 分	昭 和 51 年		昭 和 53 年		増 減 率		1戸当たり飼育頭羽数		
	戸 数	頭 羽 数	戸 数	頭 羽 数	戸 数	頭羽数	昭和51年	昭和53年	
乳 用 牛	2,954	41,523	2,678	52,098	△ 9.3	25.5	14.1	19.5	
肉 用 牛	6,177	23,852	5,585	27,672	△ 9.6	16.0	3.9	5.0	
豚	子取り用めす豚	10,810	48,518	9,723	51,621	△10.1	6.4	4.5	5.3
	肥 育 中 の 豚	7,309	320,790	6,694	363,227	△ 8.4	13.2	43.9	54.3
	売 る 予 定 の 子 豚 そ の 他 の 豚	2,618	65,302	2,187	63,912	△16.5	△ 2.1	24.9	29.2
にわとり	6 カ 月 以 上	8,606	1,417,543	5,333	1,686,325	△38.0	19.0	164.7	316.2
	6 カ 月 未 満	1,561	523,010	1,104	561,717	△29.3	7.4	335.0	508.8
ブ ロ イ ラ ー	386	2,424,260	319	2,486,330	△17.4	2.6	6,280.5	7,794.1	

種類別に飼育規模別農家数をみると、「2歳以上の乳用牛」は10～15頭の農家が590戸（25.3%）と多く、次いで16～29頭(22.5%)、7～9頭(12.2%)、5～6頭(12.2%)の順になっている。

これを規模別に前回と比較してみると、16頭以上の農家が796戸で前回より129戸（19.3%）増加している。

「肥育中の牛」については、1頭の農家が1,705戸(47.7%)と最も多く、次いで5頭以上の824戸（23.0%）、2頭の農家が653戸（18.3%）となっている。

これを規模別に前回と比べてみると、2頭以上の農家が1,872戸で前回より151戸（8.8%）の増加となった。

「肥育中の豚」については、1～9頭の農家が1,944戸（29.1%）と多く、次いで10～19頭の農家が1,239戸（18.5%）、50～99頭の農家が897戸（13.4%）の順になっている。

表-9 2歳以上の乳用牛の飼育規模別農家数

(単位：戸，%)

区 分	飼育農家数	1～2頭	3～4頭	5～5頭	7～9頭	10～15頭	16～29頭	30～49頭	50頭以上	
昭 和 51 年	2,496	235	277	358	362	597	470	169	28	
53 年	2,320	180	187	283	284	590	521	225	50	
構 成 比	51 年	100.0	9.4	11.1	14.3	14.5	23.9	18.8	6.8	1.2
	53 年	100.0	7.8	8.1	12.2	12.2	25.3	22.5	9.7	2.2

これを前回と比べてみると、100頭以上の飼育農家が129戸（13.5%）増加している。

「6カ月以上の採卵鶏」については、1～49羽の農家が4,677戸（87.7%）と非常に多い。

これを前回と比べてみると、2,000羽以上の飼育農家が18戸（9.5%）増加している。

また、1戸当たりの平均飼育羽数は316.2羽であり、飼育農家に占める平均以上の農家の割合は7.7%と低いものになっている。これは、これらの農家の中に1戸で数千羽、数万羽を飼育する大規模養鶏農家が含まれていることを示している。

「ブロイラー」については、1,000～2,999羽の農家が81戸（25.4%）、次いで10,000羽以上の農家が74戸（23.2%）の順となっており、前回と比べてみると5,000羽以上の規模の農家において8戸（5.1%）の減となった。

表-10 肥育中の牛の飼育規模別農家数

(単位：戸，%)

区 分		飼育農家数	1 頭	2 頭	3 頭	4 頭	5 頭以上
昭 和	51 年	3,740	2,019	622	256	118	725
	53 年	3,577	1,705	653	262	133	824
構 成 比	51 年	100.0	54.0	16.6	6.8	3.2	19.4
	53 年	100.0	47.7	18.3	7.3	3.7	23.0

表-11 肥育中の豚の飼育規模別農家数

(単位：戸，%)

区 分		飼育農家数	1～9 頭	10～19 頭	20～29 頭	30～49 頭	50～99 頭	100～299 頭	300～499 頭	500 頭以上
昭 和	51 年	7,309	2,489	1,312	797	844	913	754	131	69
	53 年	6,694	1,944	1,239	738	793	897	825	160	98
構 成 比	51 年	100.0	34.1	18.0	10.9	11.5	12.5	10.3	1.8	0.9
	53 年	100.0	29.1	18.5	11.0	11.8	13.4	12.3	2.4	1.5

表-12 6カ月以上の採卵鶏の飼育規模別農家数

(単位：戸，%)

区 分		飼育農家数	1～49 羽	50～99 羽	100～299 羽	300～499 羽	500～999 羽	1000～1999 羽	2000～4999 羽	5000 羽以上
昭 和	51 年	8,606	7,723	204	220	69	103	98	111	78
	53 年	5,333	4,677	106	137	46	90	70	125	82
構 成 比	51 年	100.0	89.7	2.4	2.6	0.8	1.2	1.1	1.3	0.9
	53 年	100.0	87.7	2.0	2.6	0.9	1.7	1.3	2.3	1.5

表-13 ブロイラーの飼育規模別農家数

(単位：戸，%)

区 分		飼育農家数	999 羽以下	1000～2999 羽	3000～4999 羽	5000～9999 羽	10000 羽以上
昭 和	51 年	386	65	105	60	71	85
	53 年	319	37	81	53	74	74
構 成 比	51 年	100.0	16.8	27.2	15.5	18.5	22.0
	53 年	100.0	11.6	25.4	16.6	23.2	23.2

## 9 農用機械

農用機械の所有台数は、前回（51年）と比較可能なものについて「動力脱穀機」及び「米麦用乾燥機」を除く、それぞれが増加している。とくに「農用トラクター」91.0%、「動力田植機」55.0%、「コンバイン」52.8%と高い増加率を示している。

表-14 農用機械所有台数

(単位：台，%)

区 分	動 力 耕うん機	農用トラクター	防 除 機			動 力 田植機	育苗機	動 力 刈取機	米麦用乾燥機	ハーベスター	動 力 脱穀機	コンバイン	農用トラック
			動 力 噴霧機	動 力 散粉機	走行式動力除草機								
総 数	51年	152,816	11,708	—	—	32,776	26,454	53,357	95,468	—	103,774	14,225	36,541
	53年	155,393	22,364	45,652	20,467	2,144	50,819	31,337	58,687	89,810	8,547	△89,238	21,742
増 減 率	1.7	91.0	—	—	—	55.0	18.5	10.0	5.9	—	△ 14.0	52.8	21.5

△は減

なお、「米麦用乾燥機」の減少は、「ライスセンター」等集団の大規模乾燥施設の建設により減少し、「動力脱穀機」の減少は、農家労働力の省力化のため、「ハーベスター」及び「コンバイン」に買い替えたためと思われる。

さらに、全般的に農用機械が増加していることは、農業従事日数が減少し、農家における労働の合理化を推進させていく、一要因になっている。（農林統計担当）